

身近な情報を実践活動に生かす特別活動
学級目標の実現を目指して、学級をよりよくしようとする児童の育成
～小学5年「心をきれいにプロジェクト」の実践を通して～

名古屋市立G小学校

1 研究のねらい

私は、学級目標の実現を目指して、学級をよりよくしようとする児童を育てたい。私の考える「学級をよりよくしようとする児童」とは、「みんなで一つの目標を目指す中で、学級の成長を実感し、さらによりよくしようとする意欲をもつ児童」のことである。

本学級の5年生の児童(男子11人、女子6人の単学級)は、朗らかで活発な雰囲気がある。休み時間には全員でドッジボールをするなど仲が良い。授業にも意欲的で教師の話聞いて活動することができる。一方で、今の学級の状態に満足している児童が多く、学級をさらによりよくしていこうという姿はあまり見られない。教師の話聞くことはできるが、自分たちで考えて行動しようとする姿もあまり見られない。また、学級会では一部の児童の発言が多く、全員の意見や思いを共有できていない。

そこで、学級目標の実現をゴールに設定し、学級目標の実現に向けた活動内容を決め、行動し、振り返る活動を繰り返し行うことで、学級をさらによくしていこうという意欲を育てたい。振り返りでは、「自分も学級のためにこんな活動ができた」と学級や自分の成長を実感することで、学級をよりよくしていこうとする意欲を高めていけるよう、実践を進めていきたいと考えた。

そこで、次の2点に重点を置き、実践に取り組むことにした。

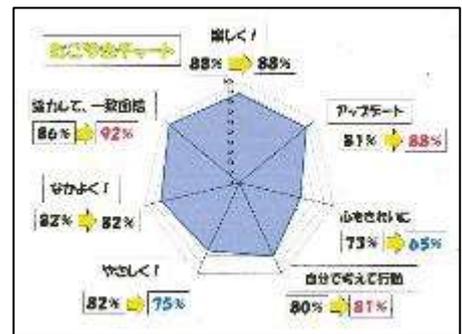
- 学級目標の実現を目指して、学級目標の重点項目を決めること
- 学級目標の実現を目指して、一人一人の意見や思いを可視化して話し合うこと

2 研究の内容(対象:5年生17人 男子11人 女子6人)

(1) 基本的な考え

ア 学級目標の重点項目を決めるために…たこやきチャート

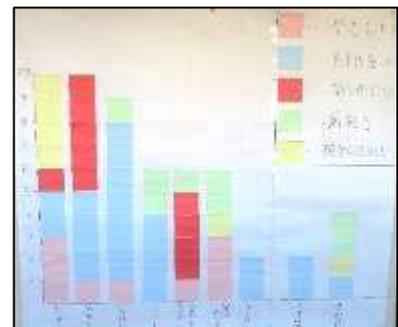
学級目標「未来へはばたけ!たこやき17スターズ!」を実現するための七つの重点項目「楽しく・アップデート・心をきれいに・自分で考えて行動・やさしく・なかよく・協力して一致団結」に分けて、学級目標実現度アンケートを行う。アンケートでは、学級目標が実現できているか4段階(できていると思う・少し思う・あまり思わない・思わない)で児童が評価を行い、その合計をパーセンテージで表し、レーダーチャート(たこやきチャート)にする。



【たこやきチャート】

イ 一人一人の意見や思いを可視化して話し合うために…「心をきれいにグラフ」

「たこやきチャート」から重点項目を決めた後、それを実現するためには、どのような姿になればよいのかを話し合う。そして、その姿になるために必要と考える活動を、全員がロイロノートで提出する。ロイロノートのカードを活動ごとに棒グラフにすることで、全員の意見を集約したグラフにする。また、ロイロノートのカードにその活動をする理由も書くことで、一人一人の意見や思いを話し合いで反映できるように工夫する。



【心をきれいにグラフ】

(2) 実践の流れ

統計的な手法を生かし、次のような流れで実践を進めていくことにした。

流れ	活動の場	活動の内容
とらえる	学級活動	「たこやきチャート」を基に、学級で取り組む重点項目を決め、それを実現するための具体的な姿を考える。
あつめる	朝の会	具体的な姿を実現するための活動を集める。
まとめる	休み時間	集めた活動を付箋で色分けし、「心をきれいにグラフ」にまとめる。
よみとる	学級活動	「心をきれいにグラフ」を基にして、次の活動について話し合う。
生かす	学級活動・常時活動	「心をきれいにプロジェクト」を計画し、実行する。

(3) 実践の内容（2学期の実践）

ア 題材名 「心をきれいにプロジェクト」を成功させよう

イ 目標 学級目標の実現を目指して、みんなで一緒にする活動を考え、進んで取り組むことができるようにする。さらに学級目標の実現への意欲を高めることができるようにする。

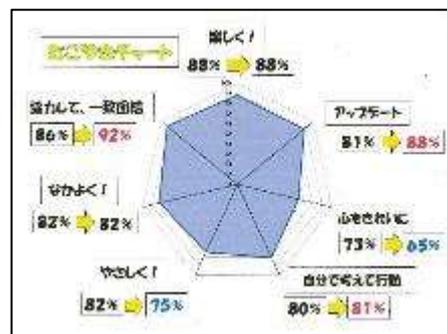
ウ 統計教育上の指導目標 「たこやきチャート」から学級の重点項目を決め、「心をきれいにグラフ」を基に、一人一人の思いを大切に話し合うことができる。

エ 実際の活動

【とらえる】…学級活動

「たこやきチャート」を基に、学級で取り組む項目を決め、それを実現するための具体的な姿を考える

1学期から「たこやきチャート」を基に実践を進めてきた。学級目標実現のために、7月には「なかよく」を重点項目とし、「1年生となかよし祭りをしよう」を、9月には、「協力して、一致団結する」を重点項目とし、「運動会、一致団結プロジェクト」に取り組んできた。児童は、学級目標の実現に向けて、自分たちで話し合い、重点項目を決め、活動内容を考え、実行していくことで学級がよりよくなっていくことに、うれしさを感じているようだった。



【4回目の「たこやきチャート」】

10月に入った。4回目の「たこやきチャート」(右図)を作成し、児童に提示し、話し合った。

司会：「たこやきチャート」を見て、分かることや気付くことはありますか？

C1：「協力して、一致団結」が92%に伸びた！運動会に向けて頑張った成果だと思います。

C2：「アップデート」と「自分で考えて行動」も伸びました。みんなで活動を話し合っ、みんなで協力して準備できたからだと思います。

C3：「やさしく」と「心をきれいに」が下がりました。理由を見てみると、活動中にけんかがあったり、きつい言葉を使っていたりするからと書いてありました。

司会：10月の重点項目は、どれにしますか？

C4：「協力して、一致団結」をさらに伸ばしたいです。理由は、もうすぐ学芸会もあるし、さらに協力できるクラスにしていきたいからです。

C5：「心をきれいに」がいいです。理由は、今65%で、このまま下がり続けたら、けんかばかりの嫌なクラスになってしまうと思うからです。

C1：C5さんの意見に賛成です。「心をきれいに」を伸ばす活動をすれば、今下がっている「やさしく」も一緒に伸びていくと思います。

司会：「協力して、一致団結」「心をきれいに」「やさしく」の中で、どれに決めますか？

C6：「心をきれいに」ができていなかったら、「協力して、一致団結」もできないと思います。

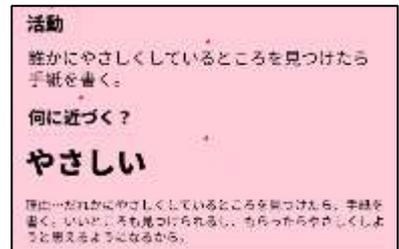
C7：「心をきれいに」ができたなら、「協力」や「やさしく」も一緒にあげていけると思います。

話し合いの結果、10月の重点項目は「心をきれいに」に決まった。

すると、ある児童が「先生！『心をきれいに』って、みんながどうなればいいんですか？」と聞いてきた。私はそれを学級全体に聞いてみると、それぞれに目指す姿が違うように思えた。そこで、「心をきれいに」とは、具体的にどのような姿かについて話し合った。話し合いの結果、「やさしい」「助け合い」「ありがとう」「前向き」「相手のために」の五つの具体的な姿を目指すことに決まった。

【あつめる】…朝の会 具体的な姿を実現するための活動を集める

五つの具体的な姿(やさしい・助け合い・ありがとう・前向き・相手のために)を実現するための活動を集めた。ロイロノートを活用し、どのような活動をするかと目指す姿、その理由を書いたカードを教師に送信した(右図)。活動は、一人で最大で五つ考えられるようにし、一つの姿につき、一つの活動を考えるようにした。すると、「どろけいがいいと思う。どろけいはチーム同士で仲間を助けるから、『助け合い』の姿に近づくと思う」「誰かに優しくしているところを見つけたら手紙を書くと、『やさしい』の姿に近づくし、もらったら他の子に優しくしようと思えると思う」など、児童は具体的な姿を実現するための活動をたくさん考えることができた。



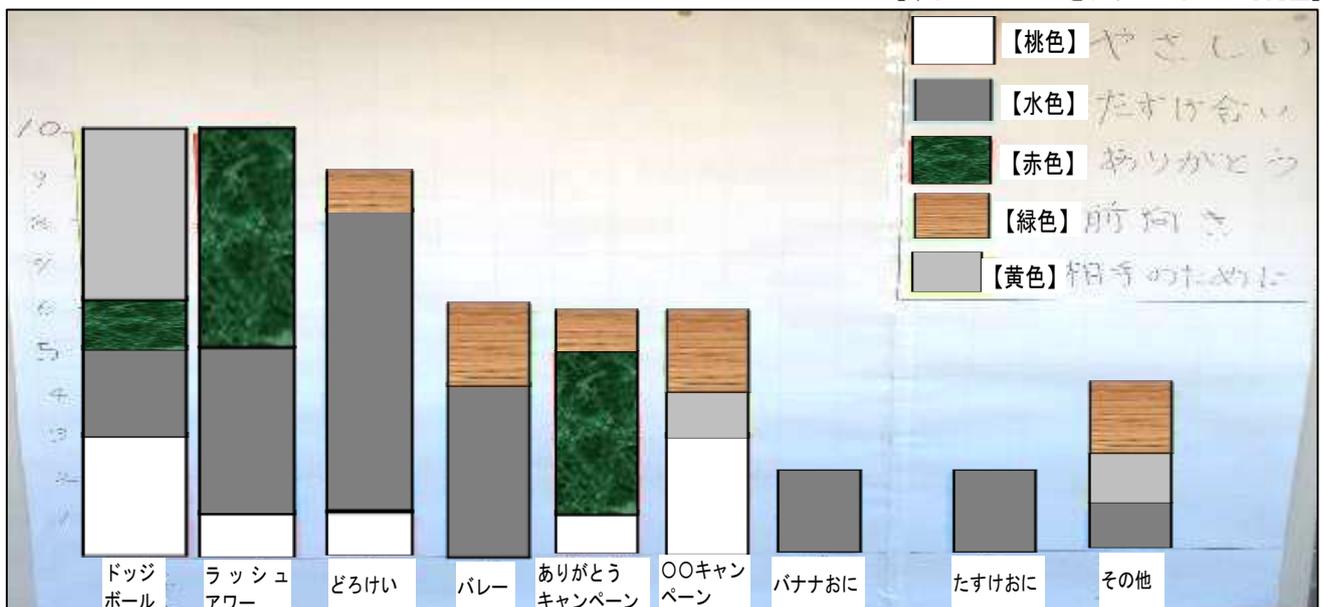
【具体的な姿を実現するための活動】

【まとめる】…休み時間 集めたカードを付箋で色分けし、「心をきれいにグラフ」にまとめる

五つの具体的な姿を色分けをして集めた(やさしい…桃色、助け合い…水色、ありがとう…赤色、前向きに…緑色、相手のために…黄色)。実行委員の児童は集まってきたカードを見て、「すごい！たくさん集まったね」「でも、これだと、どの活動がいくつあるのかが分かりにくいね。どうしようか」と話していた。そこで私は、「見やすくまとめられるといいね。何かいい方法あるかな?」と話した。すると、「算数で学習した、表やグラフにまとめると見やすくなるかも」「他と比較したいから、棒グラフがいいかもね」「活動ごとに棒グラフにまとめてみよう」と決まり、棒グラフにまとめることになった。カードの色を付箋で表し、順番に並べていくことで棒グラフを作成した。完成したグラフを「心をきれいにグラフ」と名付けた(下図)。



【集まったカードをグラフにまとめる児童】



【よみとる】…学級活動 「心をきれいにグラフ」を基にして、次の活動について話し合う

完成した「心をきれいにグラフ」(前項)を見ながら話し合いを行った。まず、「心をきれいにグラフ」を読み取りやすくするために、グラフを印刷し一人一人に配付した。また、活動を行うと具体的な姿に近づく個々の理由も分かるように、ロイロノートで全てのカードを見られるように共有した。

司会：まず、「心をきれいにグラフ」を見て、分かることはありますか。

C1：ドッジボールとラッシュアワーの数が10枚で一番多いです。

C2：「助け合い」が全体的にたくさんあります。合計で22枚です。

C3：「相手のために」が一番少ないですね。合計で6枚です。

C2：「前向き」や「やさしい」も少ない感じがします。

司会：集計したところ「助け合い」22枚、「ありがとう」10枚、「やさしい」9枚、「前向き」7枚、「相手のために」6枚でした。

C4：どろけいは、「助け合い」の数が7枚で一番多いです。

C5：ラッシュアワーは「ありがとう」の数が5枚で一番多いです。

C6：ほとんどの活動に、「助け合い」が入っていることが分かります。

C1：ドッジボールは四つの姿が入っていて、バランスがよいです。

C3：五つ全ての姿が入っている活動は、一つもありません。

話し合いでは、グラフから分かることとして、カードの数が多き活動だけでなく、全体の具体的な姿のカードの数や、活動の中に具体的な姿のカードがどれだけ入っているかなど、様々な視点から、話し合うことができた。その後、どの活動を行うかを話し合った。

司会：「心をきれいに」を実現するためには、どの活動をすればいいと思いますか。

C1：どろけいがいいと思います。「助け合い」が一番たくさん入っていて、「助け合い」が実現できそうだからです。

C2：ドッジボールがいいと思います。四つの目指す姿が実現できそうだからです。

C3：バレーがいいです。一つのボールを落とさないように「助け合い」ができるし、いいプレーが出たとき「ナイス！」と言って、失敗したときに「ドンマイ！」と言えば「前向き」になれます。

司会：それは、ドッジボールやラッシュアワーでもできると思いますが、みなさんどうですか。

C4：確かにそうだね。ドッジボールの活動理由を見てみると、「ボールを友達に譲るルールを付ければ、『やさしい』ができる」という意見があります。

C5：「相手のボールをキャッチしたら外野が復活できるルールをつければ、『ありがとう』ができる」という意見があります。ルールを工夫すれば、五つの姿を入れられそうですね。

C6：そう考えると、一番バランスのいいドッジボールに今入っていない「前向き」の姿を入れられないですか？

C2：さっきのC3さんの意見で、キャッチしたときに「ナイス！」、当たったときは「ドンマイ！」という言葉でチームのみんなでかけるルールを入れてみるのはどうですか。

全員：賛成！

話し合いでは、グラフで分かったことを基に、意見を言うことができていた。また、活動理由にも注目してルールを工夫すれば、五つの具体的な姿を実現できることをグラフを見て話し合う中で、

見付けることができていた。その後の話し合いでは、次のように話し合った。

C 8 : ドッジボールの活動が1回だけで、「心をきれいに」ができると思いますか。

C 9 : 確かにそうですね。もう一つ活動を決めましょう。

司会 : 1回の活動だけではなくて、毎日できる活動も入れるのはどうですか。

C 6 : 賛成です。ありがとうキャンペーンなどを入れて、毎日活動できるといいと思います。

C 7 : ありがとうキャンペーンで友達のよいところを見つけたら送り合う活動はどうですか。

C 1 : そうですね。よいところをもらったら「前向き」にもなれるし、「ありがとう」も言えます。

C 4 : 月～金まで5日あるから、毎日五つの具体的な姿を変えてよいところを見付けるといいかも。

全員 : 賛成 !

1回の活動だけでなく、常時行えるキャンペーン活動も行うことに決まった。グラフの読み取りから見付けた、「ルールを工夫して具体的な姿を実現できるようにする」という意見は、キャンペーン活動にも取り入れられた。話し合いの結果「ありがとうキャンペーン」「たすけドッジボール」「やさしさ障害物リレー」「称えるバレー」の活動を行うことに決まった。それぞれの活動ごとに担当者を決め、具体的な姿を実現していくためのルールを真剣に話し合う姿が見られた。

【生かす】…学級活動・朝の会・休み時間 「心をきれいにプロジェクト」を計画し、実行する

活動ごとのグループに分かれ、計画を立てた。だれが、いつ、どのような準備をするか話し合っ
て決め、全体で共有するために、「心をきれいにプロジェクトへの道」を作成し、掲示することにした。児童は、そこに計画を書き込み、協力して活動の準備を進めることができた。

ア ありがとうキャンペーン

ありがとうキャンペーンの児童は、「よいところ見付け」を2週間行った。話し
合いで出た意見を参考に、毎日見付ける「具体的な姿」を変え活動を行った。全員に
よいところが伝わってほしい、そしてみんなに楽しんでもらいたいという児童の
思いから、毎日くじを引き、その番号の児童のよいところを見付けるようにした。
児童は、「お皿を割った子に『大丈夫かな。けがはないかな』と気遣っていて、優
しい」「毎日、手を積極的に挙げていて、前向きに授業を頑張っている」など、五
つの具体的な姿を互いに送り合うことができていた。



【曜日ごとの見付ける姿】



【ペアをくじで決める児童】

イ たすけドッジボール

グループでルールを考えるときには、「連続で投げられないようにすれ
ば、誰かにボールを譲るから、『相手のために』や『やさしさ』はできそう
だね」「話し合いで出ていた、ボールを捕ったら『ナイス!』や当たったら
励ましの言葉を掛ければ『前向き』はできそうだね」と、話し合いの中で出
された、ルールを工夫することで五つの具体的な姿を実現できるようにす
ることを意識して、ルールを考えることができていた。



【対戦後に、称え合う児童】

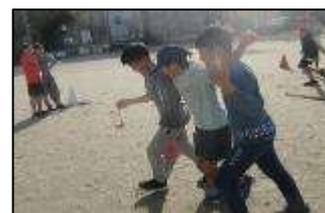
活動日には、工夫されたルールによって、「ありがとう!」「ナイス!」「ドンマイ!」と温かい言
葉にあふれたドッジボールにすることができた。

ウ やさしさ障害物リレー

障害物リレーのルールの話し合いでは、「同じチーム内や他のチームを応援できれば、『やさしい』

ができるよ。自分の順番ではない時は応援するルールを入れようよ」「最後は、チームのみんなで肩を組んでゴールすれば『助け合い』や協力ができそうだね」と具体的な姿が実現できるよう工夫していた。

活動日は、ボールを入れる障害物に苦戦をしている児童に、「もう少しで入るよ！がんばれ！」とチーム関係なくみんなで応援する姿や、最後に肩を組んでゴールをする姿が見られ、とても温かい雰囲気の中、活動を行うことができた。



【肩を組んでゴールする児童】

エ 称えるバレー

称えるバレーの係は、チームをできるだけ平等な強さにするために、他の係に相談して決めていた。ルールは、「勝ち負けがあると熱くなる人が多いから、勝敗はなしにしよう」「相手チームがよいプレーをしたら、みんなで称えよう。そうすれば『相手のために』ができそうだね」と、目指す姿が実現できるように工夫することができていた。



【相手チームを称え拍手する児童】

活動日は、勝敗に固執することなく、いいプレーがでたら、チームが違っても、「すごい！」「上手だね」と称え合った。活動後、係の児童が感想を聞くと、「〇〇さんと対戦したとき、ぼくたちのチームのプレイに拍手してくれてうれしかった」「相手を称えるとなんだか『心がきれいに』なった気がした」と話し、ルールを考えた係の児童はうれしそうにしていた。

(4) 実践の成果と課題（成果：○課題：●）

実践後、再度、学級目標実現度アンケートをとり、5回目の「たこやきチャート」を作成した（右図）。「心をきれいに」の重点項目は数値が大幅に伸び、他の項目も伸びている。この結果から、以下のように成果と課題をまとめた。



【5回目の「たこやきチャート」】

- 「たこやきチャート」を活用することで、学級目標の実現度が可視化され、児童が学級の現状を捉えることができ、学級をよりよくしようとする意欲を高めることができた。
- 「心をきれいにグラフ」で、児童一人一人の意見を基にグラフを作成したことで、児童の思いを可視化したグラフにすることができた。また、具体的な姿ごとにカードを色分けをし、理由も見られるようにしたことで、数だけにこだわらず、理由に対しての意見を話し合うことができた。
- 学級目標の実現を目指す中で、学級の成長を実感することはできたが、それに伴った個人の成長を実感するまでには至らなかった。今後は、頑張りを互いに認め合い、自分が活躍できる活動を選択させるなどして、学級の成長は個人の成長とつながっていることを実感させていきたい。

3 研究のまとめ

5回目の「たこやきチャート」を見て、「『心をきれいに』が伸びてるね！やった！」と喜び合う児童。私が感想を聞くと、「『心をきれいにグラフ』を作って、みんなの色々な考えや気持ちを聞くことができてよかった」「グラフで、みんなの考えや活動の理由が分かったのがよかった」「活動前より、みんなが優しい声を掛けてくれる」「学級目標実現に近づけてうれしい」など、自分たちで話し合っ、決めた活動によって目標に近づいたことに、喜びを感じている姿が見られた。そして、「次は『アップデート』が低いから、伸ばしたいね！」と学級をさらによりよくしようとする児童の姿が見られ、思わず笑みがこぼれた。今後も、学級目標の実現を目指して、学級をよりよくしようと自分たちで考え行動できる児童を目指し、児童たちの伴走者として、支援していきたい。